

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年（2020年）3月6日

事業所名 草笛学園

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------|---|----|-----|--|--|
| 環境・体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 14 | 1 | | |
| | ② 職員の配置数は適切であるか | 8 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・制度上の配置人数は確保できているが、兼務による流動的な配置ではなく、常時配置が望ましい。 ・職員の人数により、療育内容や配置を変更しながら対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・制度上の配置人数より多く配置しているが、兼務による流動的な配置であり、常時配置できるような支援体制を検討していく。 ・関連団体との協議で、児童期支援の体制整備の充実を意見として国に挙げていく。 |
| | ③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 11 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎になったこともあり、衛生的で、子どもたちが安全に過ごせる空間はできている。段差やスロープなどバリアフリーの点では十分ではない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎になり、衛生的に、構造的により良いものになっている。 ・子どもたちの分かりやすさや活動の導線など、配慮や工夫をしていく。 |
| | ④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 15 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎の心地よさを引き続けるように、日々の整理整頓・清掃活動をおこなっています。 | |
| 業務改善 | ⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか | 14 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・園の在り方、活動の内容など、毎月の職員会議の中で、起案、反省をおこなっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、毎月の職員会議、年度末の会議を通して、園の在り方、活動内容の検討をしていく。また、評価表を用いて保護者への意向を確認し、現状の見直しをし、次年度への取り組みに活かすようにしていく。 |
| | ⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 15 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価表を導入し、実施。会議で結果共有し、改善点は話し合っている。 | |
| | ⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 15 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの公開と閲覧できるように玄関への設置をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの視点で、評価いただき、自己評価で振り返ることによって、よりより支援になっていければと考えている。 ・第三者評価制度もあり、導入については検討していく。 |
| | ⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 9 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・第三者による外部評価はできていない。 | |
| | ⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 15 | 0 | | <ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上は重要課題と考えており、研修は必須である。 |
| 適切な支援の提供 | ⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか | 15 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達検査、行動評価などを行い、子どもの発達や特性に即した支援計画を作成している。 ・発達支援の5領域、家族支援を踏まえて、計画作成・支 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の支援については、今後、検討していく。 |
| | ⑪ 子どもの適応行動の状況を図るため | 15 | 0 | | |

| | | | | | |
|--------------|---|----|---|---|---|
| | に、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | | | 援内容を考えている。・活動内容については、クラス担当・グループ担当・全体職員と多様な職員で意見を出し合い、プログラムを立案、実施している。 | |
| | ⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 15 | 0 | ・会議(クラス・外来教室など)を通して立案を行なっている。 | |
| | ⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 15 | 0 | | |
| | ⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 15 | 0 | | ・活動の立案をするにあたっては、活動のねらいや意図を職員間で共有したうえで行っていく。 |
| | ⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 13 | 1 | | |
| | ⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか | 15 | 0 | | |
| | ⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 13 | 2 | ・朝礼・支援開始前に、職員配置・支援内容を確認している。 ・行事や活動内容によっては、詳細な打ち合わせを行っている。 | |
| | ⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 12 | 2 | ・その日の振り返りが難しいことが多いが、開始前の打合せ時に前回の活動の振り返りを行なっている。 | ・引き続き、日々の振り返りは、限られた時間(終礼など)の中で、共有すべき点について実施していく。 ・より詳細については、各種の会議を通して、子どもの評価・取り組み・支援の内容を検討し、支援につなげていく。 |
| | ⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 14 | 1 | ・療育日誌により振り返りを行っている。 | |
| | ⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか | 14 | 1 | ・年間の前期後期で、支援の見直しである『あゆみ』の作成をし、支援計画につなげている。 | |
| 関係機関や保護者との連携 | ㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 15 | 0 | | |
| | ㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか | 15 | 0 | | |
| | ㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか | 10 | 1 | ・発達支援の面では行っている。医療的ケアの面では、保護者を通して情報は得ているが、直接的なやりとりはできていない。 | ・個々に必要な医療的ケアの状況把握やできる対応など、具体的な連携を取っていくようにする。 ・また、地域の現状や課題に対しては、情報収集・共有に努 |

| | | | | | | |
|------------|----|---|----|----|--|--|
| | ②4 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか | 10 | 1 | | める。 |
| | ②5 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか | 15 | 0 | | ・小学校への入学、保育所への入所にあたっては、支援の継続性を考える上で、情報提供が必須である。よりよい環境づくり、支援になるように具体的な連携方法を一律化し実施していく。 ・入園にあたっては、母子保健・児童発達支援事業所などからの引継ぎを受け、適切な支援につなげていく。 |
| | ②6 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか | 15 | 0 | | |
| | ②7 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | 15 | 0 | ・幼通協などの研修、学習の場が設けられ、参加している。 ・また、役員や参加者からの報告をおこない、共有する時間をもっている | |
| | ②8 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 1 | 14 | ・できていない。 | |
| | ②9 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか | 10 | 5 | ・福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会や療育支援事業会議に参加している。 | ・地域での連携や必要な支援のあり方について、検討や協力を引き続き行なっていく。 |
| | ③0 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 15 | 0 | ・職員会議、指導者会議等で共有している。 | ・保護者支援は子どもを支援すると同様に大切な事柄です。懇談や親子教室、研修会を通して、保護者の支援につなげている。 |
| | ③1 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか | 12 | 3 | | ・家族支援プログラムの実施については、今後の検討としていく。 |
| 保護者への説明責任等 | ③2 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 15 | 0 | | ・運営などについては、保護者全員が集まる機会を通じて、説明を行っている。より丁寧な説明を努めていく。 |
| | ③3 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか | 15 | 0 | | |
| | ③4 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 15 | 0 | ・おたよりや電話にて、保護者と適宜やりとりをしている。 | ・保護者の思いや悩みを聞いたり話したりする機会(懇談・親子教室など)を定期的に設けている。 ・引き続き、その時々様子によって、時間を設けたり、電話でのやりとりをしたりすることで、よりタイムリーに |

| | | | | | | |
|---------|----|---|----|---|--|--|
| | | | | | | 対応をしたいと思う。 ・保護者が安心してお子さんを預けられるように、努力をしていく。 |
| | ③⑤ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | 15 | 0 | | |
| | ③⑥ | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 15 | 0 | | |
| | ③⑦ | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 15 | 0 | ・園だより・クラスだより・事務所だよりを発行し、情報提供を行なっている。 | |
| | ③⑧ | 個人情報の取扱いに十分注意しているか | 14 | 1 | | ・情報の管理の見直しを行なう |
| | ③⑨ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 15 | 0 | | |
| | ④⑩ | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | 5 | 8 | ・新園舎の工事もあり、地域への協力依頼や説明会、内検会を実施した。 ・園や子どもたちのことを知ってもらえるように、草笛新聞を発行した。 | ・引き続き、子どもの散歩や課外活動では、積極的に近隣の方々に声をかけたり、新聞発行による周知などを行なう。 ・地域貢献活動の相談窓口として機能が発揮できるように啓発していく。 |
| 非常時等の対応 | ④① | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか | 13 | 2 | | ・子どもたちの安全を守るための必要な対応については、マニュアルを元に、職員が共有対応できることが必要である。そのための危機管理、訓練を引き続き、行っていく。 |
| | ④② | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 14 | 1 | | ・西日本豪雨災害など予期せぬ事態に対しての想定を常に意識していく必要があります。マニュアルの見直しも行なっていく。 |
| | ④③ | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか | 15 | 0 | ・保護者に記載してもらった調査表やアレルギー指示書をもとに、子どもたちの状況把握、対応をおこなっている。 | |
| | ④④ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | 15 | 0 | | |
| | ④⑤ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 15 | 0 | ・ヒヤリハットの事項は、その日の終礼で確認・対応策の共有を行なっている。 | ・引き続き、ヒヤリハット事項の共有をし、職員全体の意識を高めていく。 |
| | ④⑥ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 14 | 1 | ・年度初めに、必ず、職員全体で研修を行い、虐待防止のあり方と自らの支援姿勢を見直す機会としている。 | ・引き続き、研修機会を設けるとともに、学習会などでも、取り入れていく。 |

| | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|
| | <p>④⑦ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか</p> | 5 | 9 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの尊厳や主体を大切にしており、特段、計画に記載していない。ただ、身体拘束のとらえ方が不十分であり、見直しが必要と思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 身体を押さえる、移動を室内に制限するなど身体拘束のとらえ方を明確にし、必要なことは検討、明文化する必要がある。 |
|--|---|---|---|--|---|

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。